



近藤真彦●MASAHICO KONDO

1964年7月19日生まれ。神奈川県出身。1977年にジャニーズ事務所に入所し、アイドル歌手として、俳優として活躍する。1984年、富士のフレッシュマンレースでデビュー以来、88年から93年まで全日本F3選手権シリーズに参戦、本格的にレーサーとしての活動を開始。2000年、KONDO RACINGを結成、チームオーナー兼監督兼ドライバー3役をひとりでこなす。2006年、念願のスーパーGTシリーズ GT500クラスに日産勢の一員として初参戦を果たし、フォーミュラ・ニッポンとともに、日本の両トップカテゴリに参戦するチームに導いた。



館信秀●NOBUHIDE TACHI

1947年3月23日生まれ。三重県出身。1965年にトヨタ・パブリカでレースデビュー。1971年、トヨタ専属契約ドライバーとなり3年後、株式会社トムスを設立し代表取締役社長に就任。トヨタ車用のカスタマイズパーツを企画製作販売しながらチームを運営する。1982年に現役レーサーを引退。トヨタモータースポーツの要として活動するTOYOTA TEAM TOM'S代表として采配をふるう。全日本GT選手権には1995年より参戦、1997年にシリーズチャンピオンを獲得後、2005年にSUPER GTとなってからも参戦を継続、2006年、2009年もシリーズチャンピオンに輝いた。2014年には37号車LEXUS TEAM KeePer TOM'Sをチームランクイング、ドライバーランクイングともに2位入賞へと導いた。

「キレイな車だな」と見た瞬間に決めました。特別仕様だったみたいで、早く車が欲しいという嫁に「あの色じゃなきゃダメだ！」とこだわって、半年くらい待つて買いました。それにもキーパーコーティングしてもらつたんですけど、外から車が駐車場に入つてきたり、置いてある姿を見ると、高速公路で初めて見たとき

Q レースに興味を持ちはじめたきっかけは？
館：子どものころは車が嫌いだったんですね。酔ったのよ、車に乗ると。高校のときかな、レース好きな友人がいる

のキレイなイメージがそのままキープされていて大満足です。

て、鈴鹿サーキットでやつた「第2回日本グランプリ」を初めて観た。俺の実家は鈴鹿市にあってね、泊めてやつて一緒に観に行つたんですよ。そこでレースにハマっちゃつた。

『洗つたの？』ってなんども聞いてしまうくらいキレイなんだよ。
雨が降つた次の日もキレイ。弾くんどうな。——館

近藤真彦

株式会社トムス代表取締役会長
KONDO RACINGチーム監督

館 信秀

SUPER GT2015年シリーズが、
いよいよ4月4日(土)・5日(日)岡山国際サーキットで開幕。
これを記念して、良きライバルであり、よき先輩後輩でもある TOYOTA TEAM TOM'S 代表・
館信秀氏と KONDO RACING 代表・監督・近藤真彦氏にコーティングにまつわるエピソードや日
本のカーレースのこれからについて語っていただきました。

Q プライベートでは、どんな車に乗つてらっしゃるのですか？

近藤：僕は、シーマとエルグランドの2台を持っています。両方ともキーパーでコーティングをしています。ゴルフ場やホテルでボーターがドアを開けてくれますよね。そのとき車がピカピカでキレイで鼻高々ですよ。「近藤さんが乗つてる車の割には汚いな」と思われるの嫌だからね。車は自分の顔のようなものですから。

館：僕、実はコーティング嫌いだったの。自分でワックスをかけるのが好きだった。最後にツルツルとなる感じが良くてね。でもコーティングやるとやっぱりキレイなんだよ。リビングから駐車場の車が見えんだけど、いつ見てもキレイです。嫁に「洗つたの？」っていつも聞くんだけど、「洗つてない」というんだ。雨が降つた次の日もキレイなんだよ、弾くんだろうなきつと。コーティングを見直したね。近藤：僕の車は日産車なんですが、子供の送り迎え用に車が欲しいと嫁がいうので、どの車にしようかと悩んでいるとき、高速公路で水色のベンツがスイッチ押していくんです。「うわー！」きつかけですね。

館：へえ、そんなんだ！ 知らなかつた。

近藤：20歳ぐらいのときかな。アマチュアレースに出てみないかと誘われて、同時に厳しさを感じたけどね。

近藤：はある程度認めてもらえていたけど、レースの世界ではそうじゃない。認めてもらうにはどうしたらいいか今も考え中です。頑張つてレース界に貢献したいと思つています。